

平成23年度

事業報告書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

学校法人 高野山学園

目 次

I. 法人の概要	1
1. 法人の目的	1
2. 設置する学校の所在地等	1
3. 設置する学校・学部・学科等	2
4. 入学定員及び学生数	2
(1) 高野山大学	2
(2) 高野山高等学校	3
(3) 高野山幼稚園	3
5. 役員・教職員数	3
(1) 役員	3
(2) 教職員数	3
II. 事業の概要	5
1. 高野山学園法人本部	5
(1) 事業の概要	5
(2) 今後の課題	6
2. 高野山大学	8
(1) 事業の概要	8
(2) 今後の課題	18
3. 高野山高等学校	20
(1) 事業の概要	20
(2) 今後の課題	25
4. 高野山幼稚園	26
(1) 事業の概要	26
(2) 今後の課題	27

I. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

2. 設置する学校等の所在地

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL：0736-56-2922	本部長：森 寛勝
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL：0736-56-2921（代）	学長：藤田 光寛
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL：0736-56-2204（代）	校長：岡部 観栄
高野山幼稚園	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL：0736-56-2320	園長：倉岡 弘叔

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等			
高野山大学	文学部	密教学科		
		スピリチュアルケア学科※1		
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程	
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程	
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）	
別科				
高野山高等学校	全日制課程 普通科			
	全日制課程 宗教科			
高野山幼稚園				

※1：平成22年度より募集停止

4. 入学定員及び学生数（平成23年5月1日現在）

（1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	50	35	200	163
	スピリチュアルケア学科			145	14
	計	50	41	345	177
大学院	密教学専攻 修士課程	13	7	26	23
	博士後期課程	3	2	9	8
	修士課程（通信教育課程）※1	20	23	40	167
	仏教学専攻 修士課程	8	1	16	4
	博士後期課程	3	0	9	1
	計	47	33	100	203
	別科	30	4	60	7

※1：5月1日現在につき、通信教育課程は前期セメスター入学生数

(2) 高野山高等学校

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	50	360	134
宗教科	20	6	90	26
計	80	56	450	160

(3) 高野山幼稚園

区分	入学定員	入学者数	収容定員	児童数
	30	15	30	15

5. 役員・教職員数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	庄野 光昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員

①法人本部

区分	専任職員
事務局	1

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1 ※1	9	5	3	50

区分	専任職員	契約職員	嘱託職員
事務職員	14	7	1

※1 は内数。

③高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1 ※1	1 ※2	14	13

区分	専任職員
事務職員	14

※1・※2 は内数。

④高野山幼稚園

区分	園長	専任教諭	契約職員
教育職員	1	4	2

Ⅱ. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部

平成23年4月から本格始動した法人本部では、学園全体の経営方針を“学生・生徒募集に向けた魅力ある学校づくり”と定め、特に大学部門・高校部門の改善・改革案として、各種の事業計画・立案・運営を行なった。

また、平成23年4月1日より、新しい給与規則（別表のみ）・定年規則・退職金規則が先行実施され、人件費面での経費圧縮が図られている。

今後は、年間の予算執行状況の管理を徹底しつつ、収入の増加に向けた取り組みを、確実に進めることとしたい。

（1）事業の概要

①経営改善に向けた取り組み

■就業規則等の改正（一部先行）

平成22年9月の寄附行為変更と連動して行なってきた、就業規則等の変更について、平成23年4月1日より、給与規則（別表のみ）・定年規則・退職金規則の先行実施を行なった。

■予算執行状況報告会の実施

予算の執行状況に関して、本部・大学・高校・幼稚園の各部門の予算執行状況を月単位で把握し、財務の安定化を図る目的で「予算執行状況報告会」を開設した。平成23年度は、ダライ・ラマ法王招聘事業の影響等で、大学部門の報告が遅れたが、本部部門・高校部門・幼稚園部門の状況把握と対応の協議に関しては、一定の成果があったと考えている。

②“魅力ある学校づくり”に向けた取り組み

■法人本部方針の策定

すでに継続的に実施されてきた経費削減方針において、消費収支における単年度赤字における減価償却費などの非資金支出が占める割合が高いことから、収入の増加を企図する経営方針への転換を行なった。その中でも、特に大学部門・高校部門では、学納金収入の増加に直結する学生・生徒募集の強化に向け、“魅力ある学校づくり”を主題とする以下の方針を策定した。

- ・ 大学部門：①高野山専修学院の修業年限への組入れ
②高野山霊宝館所蔵の文化財調査への協力
③学習・就職支援室の開設
- ・ 高校部門：①紀ノ川筋へのスクールバスの運行
②通信教育制度の検討

■山内諸機関との連携

上記の方針を実行するため、従来は独自に活動していた高野山専修学院・高野山霊宝館との連携強化を行なった。高野山専修学院については、専修学院での1年間を高野山大学の修業年限（第2年次）に組入れる方向での検討に入った。この連携により、寺院後継者ならびに僧侶希望者に対し、高野山大学か専修学院かという2択状況が軽減することを期待している。高野山霊宝館との連携では、霊宝館所蔵の文化財調査に高野山大学が協力することで、霊宝館の調査の効率化を図るとともに、高野山の文化財を用いた高水準の研究の実施および学生への教育としての還元を期待している。

（2）今後の課題

①管理・運営

■諸規程の整備

平成22年度に変更された寄附行為・給与規則・就業規則等の各種規程と、旧規程の整合を図る作業が未だ完了しておらず、労使間の締結を見ていない。この点については、後述する大学基準協会の認証評価（保留付き認証）でも指摘されており、急務であると考え、平成24年度中の作業完了を目指す。

■資金収支管理の徹底

平成23年度から開始している予算執行状況報告会を定例化し、各部門の予算執行状況の把握と管理に努める。特に高校部門での資金収支を安定的に執行するためにも、各部門での横断的な状況把握と対応協議が必要であるとする。

②学生・生徒募集に関する取組み

■大学部門・高校部門における広報活動の見直し

従来は各部門単位で実施していた広報活動・広告事業を、法人本部に資金を集め

て重点的に実施する必要がある。このことにより、大学部門・高校部門・幼稚園部門の広報活動の効率的な実施を目指す。

2. 高野山大学

平成23年4月に藤田 新学長体制で始動した大学部門では、前年度に引き続き、教職員全員が、本学の経営的課題に関する認識を共有し、経営改善・改革の指針を共有して、教育の質的向上、経費削減、収益向上等の各課題に取り組んだ。寄附講座、生涯学習講座などが個人の寄附や企業からの協賛を得ていることや、それらの講座への参加者数などから、本学が行っている学問領域に関する社会からの関心は決して低くはないといえる。ただし、本学の財政状況は、学生数の減少が大きく影響しており、歳出削減分と同等の歳入減という状態にある。

なお、平成23年度の特筆すべき事業としては、大学基準協会の認証評価およびダイ・ラマ法王招聘事業の2つが、平成23年度期の特筆すべき事業であった。また、(株)フジキン会長 小川洋史氏から、故 小川修平氏の遺志として、「宗教と科学」をテーマとした研究・公開講座などの実施を旨とする5億円の寄付金をいただいた。

さらに平成23年度は、法人本部の方針に基づき、高野山専修学院・高野山霊宝館との連携、学習・就職支援室の開設準備など、“魅力ある学校づくり”にむけた取り組みを実施した。この取り組みは、引き続き平成24年度の大学の方針として、さらなる改善・改革の継続実施を進めていく。

(1) 事業の概要

①教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み

■大学基準協会の大学評価

平成22年度に提出した報告書に基づき、平成23年9月29日に、財団法人大学基準協会の実地調査を受けた。結果、平成24年3月9日付で、平成27年3月31日までの3年間の期限付きではあるものの、大学基準協会の認定を受けた。

なお、その大学基準協会の認証評価における結果報告書では、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築、の4点が至急改善されるべき点として挙げられている。平成23年4月に、学内委員会として「内部質保証委員会」を設立しており、今回指摘された内容の改善に向けて取り組んでいく。

■高野山専修学院との連携の推進

高野山専修学院の期間の高野山大学第2年次に組み入れについて、法人本部よ

り検討する旨、方針が示され、検討に入った。寺院後継者や僧侶希望者に対し、他大学から専修学院入学する場合よりも、高野山大学に入学した場合の時間的・経費的なメリットがある点を明確にする為、授業時間割の検討や奨学金制度を用いた学生への資金援助などを検討した。今後は、大学側での原案を取りまとめ、専修学院との協議に入る。この連携を通して、本学に入学する学生に、より一層充実した教育を提供することを目指す。

■高野山霊宝館との連携の推進

法人本部の方針に基づき、高野山霊宝館との連携を目指して協議を行った。平成24年度前期から、講義ならびに霊宝館に寄託されている文化財の調査を、大学と霊宝館との協力体制の下、実施することとなった。

高野山専修学院との連携とあわせて、高野山でなければ出来ない“学び”の構築を企図し、今後も山内諸機関との連携を進めていく。

■「学習・就職支援室」の開設準備

法人本部方針に基づき、学生の学習や就職をサポートする目的で学習・就職支援室の開設準備を行なった（開設は平成24年4月）。従来、本学ではあまり重要視してこなかった就職を、密教学科の学習の最終成果と位置づけ、大学での“学び”を通して社会人基礎力を身に付けさせることを目指している。また、平成23年度は橋本市のハローワークのキャリアアドバイザーとの協議を行い、平成24年度のキャリア教育の準備も行なった。

■山内寺院の貴重図書の調査

高野山大学図書館では、前年度に引き続いて、高野山竜光院より受け入れた貴重図書の目録作成を進めている。なお、高野山竜光院文書については、高野山霊宝館との連携事業においても、霊宝館に寄託されている竜光院文書の調査を大学にて行なうことで、協議を進めている。

■薬物等乱用防止対策啓発運動

平成21年7月に薬物等乱用防止対策本部が設立されて以来、全学説明会や特別講演会を実施してきたが、平成23年度においても、12月報恩日講演における薬物乱用防止講演（橋本市保健所）をはじめ、日常の説明や掲示など、学生へ

の啓発活動を継続的に実施した。

■(株)フジキン 小川洋史氏からの高額寄付金

平成23年度に、(株)フジキン会長 小川洋史氏から、故 小川修平氏の遺志として、「宗教と科学」をテーマとした研究・公開講座などの実施を旨とする5億円の寄付金をいただいた。今後は、この寄付金を、密教文化研究所の研究課題「密教と現代社会の諸問題に関する研究」の資金として活用しつつ、研究者の育成や大学事業の展開に用いていく。

②東日本大震災に関する取り組み

■東日本大震災にかかる学費減免

4月末までに被災にかかる学費減免の相談を受けた通学生2名、通信生1名と被災地区の通信生1名に申請用紙を渡し、大学院修士課程の学生1名から申請があり、後期分の学費を免除した。

■東日本大震災復興ボランティア

教職員から構成されるボランティア班、3班を派遣。釜石市の駒木山不動寺の住職補佐 森脇妙紀師の指導・コーディネートの下、釜石市ボランティアセンターに登録し、主にながれき撤去等の活動を行った。第2班では2名の学生が、カトリック教会の主催するカフェサロンにて、そこを訪れる高齢の方々のお話を伺い、また子供達の遊び相手も行った。また3班とも釜石市周辺の海岸沿いの自治体を車にて回り、被害状況を視察した。

実施日時	平成23年8月	1日(月)～	8日(月)	1班
		8月21日(日)～	26日(金)	2班
	9月	4日(日)～	10日(土)	3班

活動場所 岩手県釜石市

参加者	1班	井上ウイマラ (スピリチュアルケア学科准教授)		
		奥山直司 (密教学科教授)	(以上教員2名)	

2班	西原司朗 (学生サポート課職員)	
	阪田拓哉 (密教学科3回生)	

山城彩加（スピリチュアルケア学科3回生）

（以上職員1名、学生2名）

3班 乾 仁志（密教学科教授）

松井理男（密教学科1回生）

堺 保憲（修士課程1回生）

仲田篤志（修士課程2回生）

（以上教員1名、学生3名）

③社会貢献への取り組みー公開講座・寄附講座ー

■「高野山大学創立125周年記念 ダライ・ラマ法王14世特別講演・特別法話」

平成23年度が高野山大学創立125周年を迎えることから、高野山大学創立125周年記念事業として、チベット仏教の最高指導者であるダライ・ラマ法王14世を招聘し、大阪と高野山において、特別講演・特別法話を行なった。参加者総数は、延べ7,001名。

【大阪特別講演】（会場：舞洲アリーナ）

講 演 「ダライ・ラマ法王 般若心経を語るー空から慈悲へー」

「人生の困難を生きぬく力」

※特別講演「高野山の声明」（南山会）

日 程 平成23年10月30日（日）

会 場 舞洲アリーナ

参加者数 4,634名

【高野山特別法話】（会場：高野山大学松下講堂黎明館）

講 演 高野山講演Ⅰ「ダライ・ラマ法王 青年僧と語る」

日 程 平成23年10月31日（月）

参加者数 784名

講 演 金剛界マンドラ灌頂

日 程 平成23年11月1日（火）～11月2日（水）

参加者数 745名

講 演 高野山講演Ⅱ「ダライ・ラマ法王と科学者との対話」

「高野山大学学長、ダライ・ラマ法王と密教を語る」

※特別講演「高野山の声明」(南山会)

日 程 平成23年11月3日(祝・木)

参加者数 838名

【収支報告】 収入合計：74,054,000 円(内、チケット収入 67,131,000 円)

支出合計：76,075,184 円

差 額：▲2,021,184 円

■永田良一氏の寄附による講座・講演等

スピリチュアルケア振興を目的とする永田良一氏(株新日本科学社長)の特別寄附により、「永田良一氏寄附講座」および「21世紀高野山医療フォーラム～生と死が手をむすぶには～」を実施した。

・寄附講座

スピリチュアルケア学科の募集停止に伴い、永田氏了解のもと、平成23年度は寄附講座を「密教学特殊講義【寄附講座】」として開講した。また、永田良一客員教授、池口恵観(最福寺法主)客員教授による特別講義も行なった。

第1回 9月29日 山脇雅夫 オリエンテーション

第2回 10月6日 高橋寛治(高野山大学客員教授・元高野町副町長)
「各地に見られる共同体の姿～東日本大震災に学ぶこと～」

第3回 10月13日 高橋寛治
「共同体に見られる信仰の姿」

第4回 10月20日 高橋寛治
「共同体とこれから～住み続けられる地域とは～」

第5回 10月27日 永田良一客員教授 特別講義

第6回 11月10日 平床節子(高野町杖ヶ藪地区 むらづくり支援員)
「地域支援の現場から」

第7回 11月17日 森下哲士(御所観光組合長)
「現代地域社会の問題」

第8回 11月24日 岩崎留美（紀和病院 副院長兼看護部長）

「地域医療の問題」

第9回 12月1日 池口恵観客員教授 特別講義

第10回 12月8日 安武隆信（童楽寺住職）

「こどもの寺、現代寺子屋活動の報告（1）」

第11回 12月15日 安武隆信（童楽寺住職）

「こどもの寺、現代寺子屋活動の報告（2）」

第12回 1月12日 山脇雅夫 まとめ

・第8回21世紀高野山医療フォーラム

開催日 平成23年8月27日（土）

会場 東京ビッグサイト（会議棟7F国際会議室）

テーマ ～いま、問われる命と心の絆～

講演 基調講演 仏教思想にみる他者への思いやり

藤田 光寛（高野山大学長）

特別講演1 死の臨床 ―新たな課題と展望―

柏木 哲夫（金城学院大学学長・死の臨床研究会前会長）

特別講演2 死生学と悲しみから生まれ生きる力

島菌 進（東京大学大学院人文社会系教授

・宗教者災害支援連絡会代表）

報告1 仏足頂礼 高野山足湯隊

―被災地における傾聴ボランティア―

辻 雅榮（宝泉寺住職）

報告2 人みな被災者 ―深層の宗教心に触れて―

岡部 健（医療法人社団爽秋会理事長）

シンポジウム 危機の時代に問われる日本人の価値観、死生観

司会：柳田 邦男（作家・理事長）

山折 哲雄（宗教学者）

岡部 健 島菌 進 辻 雅榮 藤田 光寛

ワークショップⅠ 絆をつなぐ瞑想的エクササイズ

井上 ウィマラ（高野山大学准教授）

ワークショップⅡ 命と心と体のつながり

…主体性を観じる ー臨床動作法の視点からー

森崎 雅好（高野山大学助教）

協 力 高野山真言宗総本山金剛峯寺

参加人数 689 人

■首都圏における「いのちのセミナー」

「高野山大学スピリチュアルケアセミナー」としてはじまり、本学の教育の要となっている「いのち」を主題に、平成 21 年度から「いのちのセミナー」として、野村證券株式会社、AIU 保険会社代理店 有限会社高野、南海電気鉄道株式会社の協賛、財団法人メディポリス医学研究財団の協力等を得て開講した。会場は、第 1～5 回は昭和女子大学、特別実習 2 回は高野山東京別院。受講申込者数は、延べ 860 名。

第 1 回 平成 23 年 7 月 3 日（日）

武内 孝善（高野山大学副学長、文学部教授）

「空海の生涯（一） ー誕生から高雄の灌頂までー」

南 昌宏（高野山大学 文学部准教授）

「弘法大師の漢詩文 ー性霊集を読むー」

第 2 回 平成 23 年 9 月 17 日（土）

武内 孝善（高野山大学副学長、文学部教授）

「空海の生涯（二） ー高野山の開創から入定までー」

竹内 信夫（東京大学名誉教授）

「空海の生命観」

第 3 回 平成 23 年 11 月 26 日（土）

前谷 彰（高野山大学 文学部教授）

「いのちの意味 ー仏教の視座を中心としてー」

柏木 哲夫（金城学院大学学長、大阪大学名誉教授、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長）

「人生の実力」

第 4 回 平成 23 年 12 月 11 日（日）

村上 保壽（高野山真言宗教学部長・国際局長、総本山金剛峰寺執行、和歌山県正覚寺住職）

「見えないものを見る ー存在とは関係なりー」

森崎 雅好（高野山大学 文学部助教）

「“怒り” と向きあう ー仏の教えと臨床現場からー」

第5回 平成24年2月25日（土）

藤薮 庸一（白浜バプテスト基督教会牧師、NPO 白浜ネットワーク理事長）

「生と死のはざままで…Part1 “いのち” に寄り添う」

森崎 雅好（高野山大学 文学部助教）

「生と死のはざままで…Part2 “人生の物語” に寄り添う」

特別実習 平成23年 4月17日（土）

「ヴィパッサナー瞑想実習」

井上ウィマラ（高野山大学 文学部准教授）

特別実習 平成24年 3月3日（土）

「瞑想実習一月輪観の理論と実践（初級）」

佐藤 隆彦（高野山大学 文学部准教授）

特別実習 平成24年 3月4日（日）

「瞑想実習一月輪観の理論と実践（上級）」

佐藤 隆彦（高野山大学 文学部准教授）

■夏期生涯学習講座

社会に広く学習機会を提供する生涯学習の取り組みとして、南海電鉄株式会社の協賛を得て、7月9日・10日に、大阪（難波 パークスホール）にて、夏期生涯学習講座を開催した。参加者は延べ173名。

講 演 「ほとけの姿を読み解く 一密教図像学入門一」

川崎一洋（大日寺住職）

「仏教新潮流と密教 一明治のセイロン留学生の事績をてがかりに一」

奥山直司（高野山大学 文学部教授）

■高野山大学専任教員による夏季セミナー（連続講座）

平成20年度から、本学の特色ある教育を知ってもらうとともに生涯学習の機会を提供するものとして、本学専任教員による連続講座形式の夏季セミナーを開催している。平成23年度は2日間の日程（7月30日・31日）で開催した。（会場 高野山大学松下講堂黎明館）

講 義 「弘法大師空海の「三教思想」を学ぶ」

静 慈圓（高野山霊宝館館長、高野山大学名誉教授）

「高野山寺家の歳時記」

高岡隆真（高野山真言宗教学課課長心得、高野山明王院住職）

「弘法大師の国家観」

前谷 彰（高野山大学 文学部教授）

「道場荘嚴具の象徴的意味について」

佐藤隆彦（高野山大学 文学部准教授）

「「自死」について考える ―仏教・密教の視点から―」

森崎雅好（高野山大学 文学部助教）

「弘法大師と曼荼羅の心〈秘密荘嚴心〉」

中村本然（高野山大学 文学部教授、密教文化研究所所長）

■伝統教学復興プロジェクトの実施

平成 16 年度からはじまった本事業は、高野山真言宗常光院住職、山崎泰廣大僧正を大阿闍梨に、「大日経講伝」「金剛頂経講伝」「両部曼荼羅講伝」「阿字観奥義」を開筵してきたが、平成 23 年度は、前年度に引き続き、高野山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長、松長有慶大僧正を大阿闍梨に迎えて、「理趣経法伝授並びに理趣経講伝」の第四会・第五会を開筵した。

第四会…平成 23 年 6 月 30 日～7 月 1 日

第五会…平成 23 年 12 月 8 日～12 月 9 日

■高野山学の開講

平成 15 年 7 月、調査研究・地域振興・相互施設の活用などで連携することを目的に、高野町との友好協力協定を結び、平成 16 年 4 月から、一般の人を対象に、「高野山学」を開講している。高野山学は、真言密教の聖地として独自の歴史と文化を育んできた高野山の歴史を「学び」として体系化するもので、本学教員も講師を務めている。

④高野山大学密教文化研究所の活動

高野山大学密教文化研究所は、弘法大師空海の真言密教を中心に、広くアジア諸地域の密教の教理・実践体系を明らかにし、密教文化およびその関連領域に関する総合的学術研究を行い、もってその進展と質的向上に寄与することを目的としている。さらに、その成果を活用して社会に貢献するとともに、現代における

諸問題に対応することも目指し、研究活動を行っている。

■研究会

第1回 7月7日(木)

鈴木晋怜「脱世俗化社会における伝統教団の役割」

第2回 7月14日(木)

佐藤隆彦「引導作法の形成と展開」※本山布教研究所との連携

第3回 9月27日(火)

井上ウィマラ「マインドフルネス瞑想の臨床への応用可能性」

第4回 11月17日(木)

大塚伸夫「初期密教時代にみられる二系統の密教化潮流について」

第5回 12月1日(木)

森雅秀「灌頂研究の現在」

森崎雅好「自殺ハイリスク地での自殺防止活動と調査研究」

第6回 12月15日(木)

下西忠「近松の遍路」

中村本然「道範の生没年について」

第7回 2月21日(火)

室寺義仁「仏教瞑想に係わるパーリ聖典用語について」

船山徹「漢訳語『毘婆沙』の意味と問題点」

■学術交流会

4月26日(火)

ロナルド・デービッドソン博士（米国フェアフィールド大学教授）を囲む学術交流会

■講演会

第1回 10月4日(火)

講師：アルボムッレ・スマナサーラ（スリランカ上座仏教長老）

内容「初期仏教における『真言』とは？」

第2回 11月15日(火)

講師：河正子（NPO法人緩和ケアサポートグループ代表）

内容「スピリチュアルペインとケアの研究—個人的あゆみを中心に—」

■輪読会

- ・輪読資料：『三教不斉論』

担当：野田悟兼任研究所員、池田将則・倉本尚徳・藤井淳・村田みお委託
研究員、中谷征充受託研究員、田寺則彦

- ・輪読資料：ラトナーカラシャーンティ著『一切秘密タントラ註』

担当：加納和雄専従研究所員

■『密教文化研究所紀要』第25号（総頁数170頁）の発行、Web公開

■『電子版弘法大師全集』『電子版真言宗全書』発刊

編纂・監修 密教文化研究所 製作・販売 小林写真工業（株）

■補助金「特別補助／大学院等の機能の高度化への支援／研究施設運営支援」

○申請額 2,358,000 円 → 補助金額 1,000,000 円

（2）今後の課題

①大学の改善・改革に向けて

■内部質保証委員会

平成23年度に大学基準協会から指摘された、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築といった点について、内部質保証委員会において検討を重ね、平成27年3月31日の期限までに、これらの点を改善することを目指す必要がある。

■教育コンテンツの見直し

大学基準協会の認証評価でも指摘されている、学生数の確保に向けて、特に重要視すべきなのが、教育コンテンツが魅力あるものであり得るか、という点である。

専修学院・霊宝館との連携、学習・就職支援室の開設とキャリア教育の充実といった、平成23年度の法人本部方針を踏まえつつ、学生に関心を持って臨んでもらえる教育コンテンツを構築していく必要がある。

②高額寄付金の運用

■(株)フジキン 小川洋史氏からの高額寄付金

(株)フジキン会長 小川洋史氏から寄付いただいた5億円を、大学の教育・研究・

啓蒙活動の資金として運用できるよう、寄付者の意向を汲み取りつつ、大学側の要望を明確に寄付者側にも伝えていく必要がある。

3. 高野山高等学校

高野山高等学校では、「宗教教育の徹底」と「心の教育の充実」を基本に、理念としては、『感謝の気持ちを忘れず、高い志をもって、あきらめずに努力する』生徒を育てることを目標に、学校全体で取り組んでいる。

平成23年度入学者は56名であり、平成22年度の理事会・評議員会で設定された目標値の60名にはわずかに届かなかった。しかしながら、平成23年度の宗団寄附金が1億円減額となったにも関わらず、支出の削減が継続的に進んでおり、財務面での努力が特筆される点、さらには生徒募集に向けた試みが、今後の生徒募集にも継続的に活かされると判断できる点などから、入学生数が目標に届かなかった場合の募集停止案については、理事会・評議員会において破棄された。

しかしながら、今後、高野山高校の経営基盤を安定させるためには、従来以上の収入源となる事業を検討する必要がある。

(1) 事業の概要

①教育に関する取り組み

■普通科・宗教科における教育内容

・普通科AL進学コース

普通科進学コースでは演習の時間を設け、個別指導を重点におき、総合コース（自己探求系）において、数学では公文式教材を使用し個別指導、国語は漢字能力検定用の教材を使用し個別指導、英語ではインターネットを利用した個人指導を行なう。英、数、国に関しては3学年共、習熟度別にクラスを編成して授業を実施している。

また、1学年の基礎学力未定着者に対しては、「学び直し」の補習を、3年生も希望進路に向けて、放課後や土曜日を利用し、英、数、国と福祉（介護福祉士国家試験対策）の補習授業を実施した。長期休暇には各学期に定期考査の基準点に到達していない生徒を対象に、補習や進学・就職対策講座を実施している。

・普通科総合コース（自己探求系）

総合コース（自己探求系）の数学では公文式教材を使用し、国語は漢字能力検定用の教材を使用した綿密な指導を展開し、英語ではインターネットを利用した個人指導を行う。また、校外講師のご協力を得、世界遺産「紀伊山地の霊場と参

詣道」の豊かな自然、文化遺産等本県のもつ多くの価値ある財産を活用し、体験的に学習しながら郷土への理解を深めた。また、インターンシップの導入や、高野町の協力の下、各種団体の方々からレクチャーや討論会、実習を行なっている。世界の福祉見聞録（学校設定科目）において、インターネットを利用し問題意識を持ち問題解決の方法や現状についての考察を行った。

※総合コース・自己探求系体験学習校外講師

実施日：平成23年6月1日～3日

講師：高橋 寛治 先生（前高野町副町長）

内容：まちづくりの心（長野県飯田市現地研修）

・普通科総合コース（介護福祉士養成系）

総合コース（介護福祉士養成系）では、社会福祉実習（施設実習を含む）を通して、高齢者の方や障害を持っている方々とのふれ合い方や援助の方法、現在の福祉の制度や状況を学んでいる。

・普通科マスターズコース（硬式野球・バスケットボール）

マスターズコース（硬式野球・バスケットボール）では、体育理論やスポーツⅡの授業において、それぞれの競技をより専門的に学び、技術の向上は勿論、指導方法なども体験の中から学んでいる。

・宗教科

宗教科では、高等教育の基本となる主要科目をはじめ、高野山ならではの宗教授業を展開している。高野山真言宗の教えの下、仏教の専門知識の習得を通じた豊かな人格形成を目指し、四国遍路や高野山内での法要の体験、梵習字やご詠歌の学習・布教の実習などの体験を実施した。また、精神の錬磨と幅広い視野の涵養を企図し、書や茶道、座禅を通じた礼儀作法の教育も行なっている。

■国際交流

平成23年9月30日（金）午後から7日間、オーストラリアの空手団体「神武館」の15名が来校。本校空手道部の生徒と交流を持った。合同稽古、技術交換、練習試合を通して空手技術の向上を図りながら英語での会話を積極的に行う等、語

学向上、異文化の理解も併せて学習する事が出来た。

■学校行事

年間の主な年間行事は以下のとおり。

1. 音楽法会 5月29日(日)
2. 青葉祭前夜祭 6月14日(火)
3. 青葉祭 6月15日(水)
4. 南嶺祭(文化祭) 10月 1日(土)、 2日(日)
5. 四国遍路 10月25日(火)～29日(土)
6. 明神社大祭 10月16日(日)
7. 追悼法会 11月26日(土)

■平成23年度進学実績

複数の合格者があった場合のみ、()内に合格者数を表記した

・4年制大学・短期大学

自治医科大、早稲田大(5)、中央大、青山学院大、明治大、立教大、同志社大(3)、関西学院大(4)、関西大、大阪薬科大、京都産業大、福山大、立命館アジア太平洋大、高野山大(11)、大正大、環太平洋大、城西大、大阪産業大(4)、大阪商業大(3)、大阪電気通信大、大手前大、追手門大(2)、大阪保健医療大、大阪芸術大学短期大学部、堺女子短期大
(防衛大筆記試験合格3)

・専門学校

ECCコンピュータ専門学校、穴吹調理製菓専門学校、大原簿記専門学校、京都建築大学校、辻調理師専門学校、神戸ファッション専門学校、大阪医療技術専門学校、和歌山国際厚生学院、名古屋ブライダルビューティー専門学校

・就職

高野町役場、株式会社NTN三重製作所、株式会社オーナミ、株式会社双信、株式会社数珠屋四郎兵衛、東都株式会社、池尻石材株式会社

■表彰

- ・第35回全国高等学校総合文化祭 弁論部門 文化連盟賞

山本裕也（3年）

②生徒募集に向けた取り組み

大阪・奈良・和歌山方面各中学校、学習塾への訪問と同窓会や真言宗各地域伝道団総会等への出席。上記各中学校・塾、全国高野山真言宗寺院(他宗派寺院含む)へのダイレクトメール郵送。また、以下のような募集活動を行う。

■学校説明会

・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会（9月20日）

伊都地方中学校合同説明会（10月14日）

泉南地区中学校合同説明会（10月18日 ※資料参加）

高野山中学校 説明会（11月15日）

・学習塾、各種団体主催

関西私塾教育連盟主催教育セミナー（9月25日）

五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会（10月10日）

和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会（10月30日）

泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会（10月30日）

全寮協主催「寮のある学校説明会」

名古屋（11/10）、大阪（11/11）、福岡（11/12）、横浜（11/15）、東京（11/16）
教育と進路を考える会説明会（12月 3日）

■体験入寮・体験スクール

対象者に施設・設備を開放し、各コースの詳細説明や、実際に一日寄宿してもらい寮生活を体験して頂く事業。第1日目午後から寮見学と宿泊体験。翌日は学校説明会で各学科、コースのプレゼンテーションにより、本校の教育内容を判りやすく提示した。イベント告知の展開は、中学校、塾への訪問の際、当イベントのチラシを持参。過年度の資料請求者へも案内を送付した。

第1回：平成23年 8月27日（土）・28日（日）

第2回：平成23年11月12日（土）・13日（日）

第3回：平成23年12月10日（土）・11日（日）

参加者：43名（3回の合計）

■公開授業

実施日 平成23年11月26日（土）

■公開実力テスト

① 大 阪：平成23年11月20日（日） 12名

② 和歌山：平成23年12月11日（日） 31名

■教育講演会

大阪、奈良、和歌山の学習塾（約1,300件）にイベント案内を送付。昨年同様、伊都・橋本地区中学校校長会で本校の説明会を実施する教育講演会を6月に開催した。本教育講演会は、一度に多数の塾関係者と親交を保ち、本校の教育内容を披瀝する事の出来る機会である。

・第1回 伊都・橋本

日 程：平成23年 6月13日（月）

会 場：橋本西部地区公民館

対 象：伊都・橋本地区中学校

講 演：「文化財に学ぶ“もの”の本質」

講 師：山口文章 先生（前高野町教育長）

参加者数：17名

・第2回 大阪

日 程：平成23年10月 3日（月）

会 場：ホテルアウリーナ大阪

対 象：大阪・奈良塾関係者

講 演：「高野山に学ぶ」

講 師：池口恵観 先生（学園理事）

参加者数：120名

・第3回 和歌山

日 程：平成23年10月18日（火）

会 場：和歌山ビッグ愛

対 象：和歌山県内塾関係者

参加者数：24名

■平成24年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専 願	52	52	52
併 願	31	31	2
合 計	83	83	54

③新規事業に向けた取り組み

■スクールバスの運行

法人本部の方針に基づき、紀の川筋からの生徒募集を企図し、橋本市から高野山高等学校までのスクールバスの運行を検討し、平成24年度からの実施を決定した。

■通信教育制高校の検討

高野山高校の経営基盤を安定させるために必要不可欠な新規事業として、全国広域通信制の導入の検討を行なった。通信教育制の導入により、宗門立の高校にふさわしい「心の教育」を重視した指導で、不登校児等も含めた新たな生徒募集の領域の拡大を企図している。今後は、収益計算や業務量のシミュレーションを作成し、より具体的な検討に入る。

(2) 今後の課題

■通信教育制度

高野山高等学校における通信教育制度の導入に向けた検討に、業者を用いたマーケティングに加えて、収支予測のシミュレートを実施したい。通信教育制度が実行されれば、生徒募集における地理的条件の問題はある程度解決することが見込まれる。実現の方向に向け、慎重に検討を重ねたい。

4. 高野山幼稚園

平成 21 年度から、和歌山県ならびに高野町との協議・調整のもとに行なってきた、保育所施設における幼稚園児の教育と保育所児の保育との合併事業は、平成 23 年度に最終の 3 ヶ年を迎えた。

宗教にもとづく「教育」と行政の義務である「保育」という、目的の異なる双方を行なうという点で、課題は常に生じているが、この 3 年間の成果をもとに、その都度一つずつ解決をはかっている。長期的な展望に基づいて、よりよい形の運営形態を構築していくため、保育園事業の委託者である高野町との話し合いを定期的に行い、数年後には「認定こども園」として申請する方針である。

(1) 事業の概要

①教育に関する取り組み

■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

■預り保育の実施

幼稚園児に対して月曜日～金曜日の午後 3 時から午後 5 時までと土曜日の午前中を預り保育の時間に当て、保育時間の確保を実施してきた。保育士の人材確保は充分とはいえないが、保育士と幼稚園教諭が相互補助をしてきめ細かい保育をしてきた。

■宗教教育

宗門に属する幼稚園教育と公に属する保育という性格の違いから、平成 21 年度以来、園児たちの反応に留意しつつ、共同で教育・保育を行う場合の行事等の精選をおこなってきた現場の努力と、高野山という土地柄もあってか、宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育内容については、保護者からも好評を得ている。

②運営に関する取り組み

■和歌山県・高野町との協議

平成 23 年度は、前年度に引き続き、和歌山県・高野町と協議して指導を受けな

がら、業務・運営に関する事項の随時改善につとめてきた。

(2) 今後の課題

■「認定こども園」に向けた検討

事務部門における人材配置を重点的に検討する。幼稚園教員の負担軽減とともに、収入源の拡大をめざした運営を計画するために、幼稚園事務の見直しをあわせて行なう必要がある。